

## 平成28年度「学校経営方針」

在外教育施設 アブダビ日本人学校

校長 梶山 明彦

平成28年4月20日

### 1 はじめに

本年度は、学級数全8学級、児童生徒数42名（4月20日現在集計）でスタートします。組織運営に携わる所属教職員は、文部科学省派遣教員9名（含む校長・教頭）、NPO派遣教員4名、ファミリーサポートスタッフ1名、現地採用教員1名（アラビア語・対外折衝）、現地採用時間講師1名、現地採用事務職員1名、現地採用看護師1名、用務員1名、警備員2名、アブダビ教育評議会（ADEC）派遣教員5名、総勢26名となります。

### 2 教育目標

- (1) 学ぼうとする子どもに育てる
- (2) 思いやりをもって行動する子どもに育てる
- (3) 健康にすごせる子どもに育てる
- (4) 国際感覚を生かせる子どもに育てる

### 3 目指す学校像

本校の使命を、「日本人としてのアイデンティティを大切にしながら、国際感覚や人権感覚に優れ、高い知性や教養を身につけ、将来国際社会に貢献できる人材となるための基本を身につけること」と考え、次のことを目指します。

- (1) 安心・安全で、心おだやかになる教育環境を確保し、保護者や日本人社会等からも信頼される学校
- (2) 主体的に学び、自らを律し、粘り強く努力するとともに、思いやりがあり心豊かな児童生徒の育成を目指す学校

### 4 現状と課題

- ・安全管理の徹底、施設設備の充実などをさらに図る必要があります。
- ・人と共感する心や互いに認め合う気持ち、相手の立場になって考えることなど、人権意識を育む取組をいっそう推進する必要があります。
- ・児童生徒の学力向上のため、教員の授業力向上を図り、常に児童生徒の立場に立った、よりわかりやすく質の高い授業を目指して、授業を改善していく必要があります。
- ・所属感や存在感、満足感等を味わえる、実り豊かな学校生活をさらに充実させていく必要があります。
- ・受け入れているUAE児童への指導の充実を図るとともに、将来の進路保障等についてははっきりとした見通しを持つ必要があります。

- ・成果のある児童生徒への指導となるよう、学校の組織力をさらに向上させることが求められています。

#### 4 中期的な重点目標

- (1) 児童生徒の心の成長をうながすため、人権感覚あふれる学校づくりを推進するとともに、児童生徒の基本的な生活習慣の確立や、自主的な活動・所属感や存在感等を味わえる活動を奨励・支援するための取組を推進します。
- (2) 児童生徒（UAE児童生徒も含む）の進路実現を図るため、教育活動全体を通じて組織的に児童生徒の学習意欲を高め、学習習慣を確立するための取組を充実させるとともに、学習指導や進路指導における教員の指導力向上を図る取組を推進します。
- (3) より活力のある学校組織を構築するため、学校運営理事会等との連絡をさらに密にし、教育環境の整備を図りつつ、教員の資質向上や校務運営の改善に継続的に取り組みます。

#### 5 本年度の行動計画

##### (1) 安心・安全を確保し信頼される学校づくり

- ・顔写真入り保護者カードの導入、訪問者のチェック体制の強化、防犯ビデオカメラの増設、塀への侵入者防止対策、門扉の改修などセキュリティの向上に努めます。
- ・大使館と連携して避難訓練を実施するなど、避難訓練の一層の充実を図るとともに、学校施設の毎月1回の点検、学校の安全管理の見直し、学校安全計画の策定などに努めます。
- ・校庭の整備を年度内に完了します。
- ・各教科・領域等全教育活動において人権意識を高め、人権を尊重する教育を進めます。また、学期に1回、学級での人間関係についてのアンケートを実施し、実態把握と課題解決に努めます。
- ・全学年で実施する各種の行事、複数の学年で行う委員会活動など、幼小中が同一敷地内にある利点を生かして交流を図り、思いやりの心の育成に努めます。
- ・集会活動、宿泊的行事と道徳領域の充実を図り、日頃から「人の話を聞く、時間を守る、礼法を身につける」といった規範意識の向上に努めます。
- ・朝夕の挨拶、名前を呼ぶ際呼び捨てにせず「さん」づけ等の励行、児童生徒への積極的な声かけなどに努めます。
- ・清掃活動や美化活動など、社会の一員としての自覚を培うとともに、所属する集団に寄与し、貢献する児童生徒の育成に努めます。
- ・「開かれた学校」「信頼される学校」を目指して、保護者との相談会・懇談会の実施、学校・学年だよりの発行、保護者アンケートの実施等に努めます。
- ・特別支援教育に関わって、児童生徒に対する支援の体制づくりを推進します。

- ・緊急時の対外連絡網（保護者，学校運営理事会，文部科学省，在日本大使館，現地消防署／警察署／A D E C，所属職員等関係機関及び個人連絡先）を整備します。

## （２）学力の向上を目指す学校

- ・興味・関心のわく教材教具の開発・指導法の改善、徹底反復学習などにより，児童生徒が主体的に積極的に学習に取り組める授業づくりに努めます。
- ・分からなければ分かるまで，できなければできるようまで取り組むことができるような指導体制の確立に努めます。
- ・子どもたちの学習の定着状況を確認するため，全学年において標準学力調査を実施します。
- ・現校舎に移転後，実施していなかった水泳の授業を再開します。
- ・「週案簿」の活用等により，授業の進捗を確認しながら計画的に学習指導を進め，日本国内の進度に先行した学習指導に努めます。
- ・指導力の向上に向けた取組を校内研修や長期休業中の研修を中心に進めます。本年度も，言語活動の充実に関する研修をおこないます。

## （３）実り豊かな学校生活

- ・学級活動，委員会活動，修学旅行等の特別活動の活性化に努めます。
- ・夏祭り・砂漠行事・翔鷹祭等のアブダビ日本人学校伝統の学校行事を見直し，さらに推進していきます。
- ・副読本改訂第四版「すばらしきアブダビ」の積極的な活用や現地施設の見学，外部人材のご協力などにより，各学年や発達段階に応じた現地理解教育を推進します。
- ・全学年でネイティブの教員による「アラビア語」「英会話」の指導を実施します。
- ・ボランティアで学校教育に関わっていただける方を募集し，読み聞かせ等を引き続き実施します。

## （４）U A E国民児童に関わる教育の充実

- ・U A E児童生徒の卒業後の進路について，学校運営理事会や各関係団体との協議をさらに進めます。
- ・日本の教育課程に沿ったU A E児童生徒の指導と支援の充実を図り，基礎・基本の学力の定着と基本的な生活習慣の定着に努めます。
- ・卒業後の進路や日本訪問プログラムに備えて，日本の生活習慣や伝統文化などについての指導をさらに進めます。
- ・U A E児童生徒の保護者の意向等も把握しながら，今後のU A E児童生徒の指導について「あり方検討会」でさらに検討を進めます。

#### (5) 学校の組織力の向上

- ・大使館附属のコミュニティスクールとして、日本人会、学校理事会、保護者との連絡や情報交換を密にし、児童生徒のための学校運営を進めます。
- ・日常的な授業公開やPTA活動等と連携した取組の充実を図ります。
- ・管理職が不在の場合でも機能的に校務運営が推進されるよう、校長 $\longleftrightarrow$ 教頭 $\longleftrightarrow$ 教務主任 $\longleftrightarrow$ 教諭という職責ラインを確立します。
- ・教育公務員としての自覚を持ち、体罰等の禁止、交通事故防止、報告・連絡・相談や許可申請手続き等の徹底など、サービスの厳正に努めます。
- ・児童生徒の家庭で年間を通した見通しが持てるよう、学校の年間指導計画、行事予定、校務分掌等を保護者に公開します。

#### 6 おわりに

アブダビ日本人学校全教職員が一丸となって、学校運営に参画し、与えられた職務を着実に果たしていくことが大切です。そのために、常に職員は服務に厳正に処し、品位と節度を保った言動を心がけ、現地社会、日本人会、学校運営理事会、保護者等の皆様の信頼や期待に応えるよう努力していく所存です。